

# 夢のかけはし

## 大切な資源を 後世に受け継ぐ

市内で林業会社を営み、建築資材、紙の原料となるパルプ、バイオマス発電などに活用する木材の生産を行っています。

現場は2人体制で、南大隅町や錦江町での作業が多いです。1日に伐採する面積は約10aほど。年間で約3,000m<sup>3</sup>の木を伐採しています。

伐採以外に私が現場で行っているのは道路を形成すること。伐採した木を運搬するために、ユンボを使って山の斜面に道を作ります。作業の効率性や安全性の確保を図るために最初に行う重要な仕事です。

高校生のときに目にした「全世界で森林面積が減少してきてい

る」という新聞記事の影響を受けて、大学では林学を専攻。子どもの頃から山でキャンプをしたり海で魚釣りをしたりと、自然が大好きな少年でした。「自然が失われないうちに何か自分ができることはないか」という想いがあつたのかもしれない。

大学卒業後は県外に住んでいましたが、32歳のときに鹿児島に帰ってきて肝付町の林業会社に就職。その会社で7年間林業のノウハウを学んだ後、現在の会社を設立しました。

林業といえば伐採の印象が強いかも知れませんが、伐採した分だけ苗木の植樹も行っています。苗木を植えてから伐採できる大きさ

### 指導林業士

くまもと

むねとし

## 隈本 宗聡 さん

に成長するまでに約40〜50年必要で、はじめの5年間は草刈り等の管理が特に大変です。いま私たちが木を伐採することができるのは先代の方々の植樹のおかげであり、木材という大切な資源を次の世代に受け継いでいくことは、林業の重要な役目だと思います。

20年近く林業に携わり、今年1月に、林業に関する知識・技術の普及啓発や林業教育への支援等を行う、県の「指導林業士」の認定を受けました。いまはまだあまり活動できていませんが、今後は可能な限り、大隅森林組合と連携しながら、後継者の育成や林業を通じた環境教育に力を注いでいきたいと考えています。



【右】木が倒れる角度などを計算して、細心の注意を払いながら伐採を行う。



【左】良質な木かどうかを判別するために隅々まで観察する。

昭和45年生まれ。鹿屋高校を卒業後、県外の大学へ進学。平成14年に肝付町の林業会社に就職した後、平成21年に独立して横山町に「株式会社くまりん」を設立。趣味のツーリングでも山や海に出かけることが多いという自然好き。横山町在住。(50歳)